

関東大震災記録映像「横浜大震災火災惨状」について

土木学会附属土木図書館 正会員 坂本 真至

1. はじめに

土木図書館では、図書館活動の一環として情報資料部門土木技術映像委員会と連携し、事務局の立場でその活動に参画している。土木技術映像委員会主催の「土木学会イブニングシアター」は2000年にスタートして以来、毎年5～6回の定例上映会と市民向けの特別上映会を開催し、これまで77回、延べ1万人を超える一般市民及び会員の参加を得ている。2014年3月11日には文京シビック小ホールにおいて、第1部を「震災」特集、第2部を「東京のインフラ」特集と題して第78回特別シアターを開催、講演会と7本の関連映像を上映した。この中の1本、横浜シネマ商会の「横浜大震災火災惨状」は土木学会では始めて公開する貴重映像であった。ここでは、この映像について概観するとともに、関東大震災の記録映像全般が持つ課題を採る。

2. NFCにおける調査の現況

NFC（東京国立近代美術館フィルムセンター）が所蔵する関東大震災に関する記録映像についての考察は、同研究員の大澤浄の2013年論文「関東大震災記録映画群の同定と分類」^{注1)}に詳細にまとめられている。ここでは表-1にあげた関東大震災に関連する映像10本が紹介されており、そのうちの8本がNFC所蔵のもので、これについては、ショット別の比較検討が厳密に行われている。大澤によれば、確実にオリジナルと云える映像は3本のみで残りの映像はオリジナルからの引用が多くを占めている、とされる。

ただし、これらの映像が収録された年代は比較的新しく、①、②が1970年前後のほかは2000年代に入ってから見出されたもので、実際に関東大震災の記録映像がどの程度撮影されたかその全貌はまだわかっていない^{注3)}。また横浜シネマ商会の「横浜大震災火災惨状」は比較対象から除外されており、NFCには未所蔵で、表-1では番外として扱われている。

表-1 現存する関東大震災記録映画フィルム一覧・抄^{注2)}

No.	タイトル(仮題)	長さ (fps) /NFC 収蔵年	製作/監督, 撮影	備考
①	関東大震災 返還映画 (仮題)	13分 (18fps) /1967	不明	1967～68年の米国(GHQ 接收)返還映画の中の1本。可燃性ポジからの復元。
②	関東大震災火災実況	64分 (16fps) /1971	文部省 / 白井茂	文部省から管理換されたデューブ・ネガ原版からNFCでポジを作製。
③	大正拾貳年九月一日 猛火と屍の東京を踏みて	10分 (16fps) /2001	ハヤカワ 藝術映画製作所 / 見ノ木秀吉、岡田壮	個人寄贈の可燃性ポジからの復元。ハヤカワは大阪天王寺の教育映画製作会社。
④	関東大震災 伊奈精一版 (仮題)	16分 (16fps) /2003	/伊奈精一	伊奈精一遺族寄贈の可燃性ポジからの復元。当時朝日新聞ニュース・カメラマンの伊奈が、個人で撮影したとされる。
⑤	関東大震災 大寶寺版 (仮題)	12分 (16fps) /2003	不明	浄土宗大寶寺住職寄贈の可燃性ポジからの復元。
⑥	東京関東地方大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日	26分 (16fps) /2003頃	兵衛新聞社	兵庫県篠山町(現在は篠山市)所持16mmポジからの複製。同町には1980年頃、兵衛新聞社関係者から35mmポジ3巻が寄贈され、そこから16mmポジが作製された。第一報、第二報、第四報と3部に分かれている。
⑦	帝都大震災 大正十二年九月一日	31分 (16fps) /2003頃	不明	桜映画社寄贈の可燃性ポジ4巻からの復元。染色フィルム(インタータイトルのみ白黒)1巻と白黒フィルム3巻から成る。
⑧	関東大震災実況 (仮題)	20分 (20fps) /2005	日活 / 高阪利光、伊佐山三郎	2004年頃に山形市の映画館から寄贈を受けた大阪・プラネット映画資料図書館所蔵の可燃性ポジから複製したもの。染色部分と白黒部分が混在。
	大震災火災惨状	20分	横浜シネマ商会 / 相原隆昌、佐伯永輔	ヨコシネディーアイエー(前身は横浜シネマ商会)ならびに横浜中央図書館所蔵。長さは、当時市役所に提出された梗概に基づき、横浜開港資料館主任調査研究員・平野正裕氏が再構成したビデオ版のもの。
	大震災後の状況	3分	伴野商店(販売)	個人から寄贈を受けた東京都江戸東京博物館所蔵のパテ・ベビーフィルム。

(①～⑧はNFC所蔵)

3. 横浜開港資料館における調査の現況

ヨコシネディーアイエー(以下ヨコシネD.I.A)の「70年史」^{注4)}によれば、横浜シネマ商会のカメラマン相原隆昌は遅れて合流した佐伯永輔等と共に震災の記録映像を1週間にわたり撮影した。佐伯は現像したフィ

ルムを苦心の末米パティ・ニュース社に送ったが、このフィルムは関東大震災のニュース映像第1報となり、同社からは見舞い金と合わせて特賞が送られた、とのことである。しかし、横浜市史資料室館が2010年に発行した『報告書 横浜・関東大震災の記憶』の中で、松本洋幸（当時横浜開港資料館調査研究委員）は「記録映画「横浜大震災火災惨状」について」と題する報告を寄せ、相原が撮影した約2000尺のオリジナルのフィルムは「管見の限り現存していない」と述べている^{注5)}。松本は、横浜シネマ商会が撮影したもので現存する映像はヨコシネD. I. A所蔵の2本としている^{注6)}。

表-2 内務省検閲時の「梗概」

1 横浜大震災火災惨状 全二巻／2 横浜シネマ商会撮影
 ／3 それは大正十二年九月一日午前十一時五十八分四十四秒六であった、天地も覆さん計りの凄しき大音響!! 茲に前古未曾有の大地震は起った。つゞいて揚った八方の火の手!! 折柄の烈風は瞬時にして横浜全市を焦土と化し、数万の生霊と幾十億の財貨を奪った、身を以って免れた余は幾多の迫害!! 飢餓!! 疲労!! と闘ひつゝ、猛烈な余震の危険を冒し、累々たる死体の山を越へ、漸くにして本映画の撮影を完成した 撮影者相原隆昌／4 開港六十有余年の栄華も今は権華一朝の夢、たゞ暗然として涙下る 焦土と化した横浜全市／5 神奈川県庁及其の附近／6 横浜市役所及其の附近／7 横浜駅／8 日本鉄道最古の停車場も遂に烏有に歸した、桜木駅（旧横浜）及其の附近／9 屍骸累々として酸鼻を極めた横浜正金銀行 惨死者三百有余名／10 帝都の咽喉!! 文化の魁!! 大蔵省が十余年計画で漸く完成した大横浜新港と瞬間にして根底から破壊されてしまった横浜新税関構内及び棧橋附近
 第二巻 11 グランドホテル!! 其の名は日本人には独立祭の大火花を連想せしめ、欧米人には櫻花咲く日本を追想させるに充分であった／12 市中随一の繁華も今は空し、かねの橋（吉田ばし）を中心に馬車道通り及伊勢佐木町通りの惨状／13 惨禍の跡!! 野毛山から遠望した横浜全市／14 神奈川及高島町附近／15 富めるも貧しきも今は同じいぶせき仮小屋の雨露を凌ぐ、各所に避難せる罹災者の群れ／16 幾千万県市罹災者のために不眠不休の活動をつゞけつゝある神奈川県庁横浜市役所戒厳司令部／17 負傷者の救療し、老幼の收容保護し、罹災者に物資の供給を焚き出しに忙しき神奈川県匡済会横浜社会館／18 胸に悩を抱ける幾千人の罹災者を乗せた救援列車!!／19 横浜シネマ商会 終了

① 横浜大震災火災 (11分42秒) 大正15年8月検閲・昭和30年7月再編集 相原隆昌撮影

高島駅・山手からのパノラマ・県庁付近・市庁舎付近・横浜正金銀行（焼死体映像含）・横浜港一帯・水上警察・グランドホテル・山手外国人墓地・馬車道～伊勢佐木町付近・戒厳司令部・横浜社会館・バラック住宅・罹災者を運ぶ列車

② 横浜大震災火災惨状 (約20分) 昭和5年4月検閲

冒頭部分は「関東大震災大火実況」の第4巻 復興の努力 宮城県労力奉仕青年団の活動（建物の解体・架線工事・橋梁工事） 浅草十二階の爆破、職業紹介、思ひ思ひの生活（理髪、屋台、品川～上野馬車、市電） 力強い建設へ（架線工事、バラックと天幕生活、宮城前、日本橋三越）

途中より「横浜大震災火災」と同じ映像が流れる（順序は異なる、新規の映像あり）

焼死体を映した箇所、野毛山からの遠望、野毛町付近、日ノ出町天神坂付近、神奈川・高島町付近、横浜駅から避難する罹災者、戒厳司令部・社会館の内部映像、桜木町駅

このうち、①の映像は横浜市中央図書館所蔵のビデオと同じ内容、とのことである。同図書館は表-2に示す「1924（昭和4）年に内務省の検閲を受けた際のシナリオの全容を記した「梗概」を所蔵」していたことから、松本・平野等は上記2本の映像を編集して、この「梗概」の状態に復元した約20分の作品「横浜大震災火災（惨状）」を製作、横浜開港資料館主催の企画展等で上映している（これが表-1掲載の横浜シネマ商会の映像。「1. はじめに」に述べた2014.3.11上映時映像は①、②の順で重複分と焼死体を除いた特別編集版）。また、松本の指摘により、これまで白井茂（東京シネマ商会）撮影・文部省監修とされていた「関東大震災大火実況」の一部は、横浜シネマ商会の映像であることが判明している。

4. 問題点と課題

関東大震災の記録映像は、近年のフィルム発掘により10数本の映像が出てきているが、その多くはオリジナル映像を再編集したものであり、震災直後の撮影映像はかなり限定される。横浜シネマ商会版に着目しても当初の6000尺のフィルムは発見されておらず、その一部が辛うじて残されているのが現状であり、撮影から90年を経ているにもかかわらず公開時の制約も多い。土木技術映像委員会での貴重映像発掘の調査～分析～公開の継続的な活動が大いに期待される。

注)
 1) 『東京国立近代美術館 研究紀要』第17号, 2013, pp. 48-62 <http://www.momat.go.jp/research/kiyo/17/pp.48-62.pdf>
 2) 同上, p. 48の表をもとに作成
 3) 2013年8月31日放送のNHKスペシャル「MEGA QUAKE 発掘映像が語る関東大震災」では、英国人カメラマンが戒厳令下の被災状況を隠し撮りしたフィルムの発見を紹介している。横浜シネマ商会撮影の震災前の東京・横浜を飛行船から撮影した映像や「関東大震災大火実況」、「横浜大震災火災惨状」の映像なども見られた。映像提供はFNCのほか篠山市視聴覚ライブラリー、横浜市中心図書館、葛飾区郷土と天文の博物館、築地本願寺などに加え海外メディアなど。
 4) ヨコシネD. I. A. : 映像文化の担い手として 佐伯永輔「ヨコシネ」の歩んだ70年, 1995, 105p
 5) 松本洋幸: 記録映画「横浜大震災火災（惨状）」について, 横浜市資料室, 報告書 横浜・関東大震災の記憶, 2010, pp. 52-56
 6) 松本洋幸: ヨコシネ・ディー・アイ・エー 所蔵の記録映画について (2008.6.18調査)